

製品名: DLEC1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10013**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:5000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	DLEC1
別名	DLEC1; DLC1; Deleted in lung and esophageal cancer protein 1; Deleted in lung cancer protein 1; DLC-1
遺伝子 ID	9940.0
SwissProt ID	Q9Y238
免疫原	抗血清はヒト DLEC1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

背景

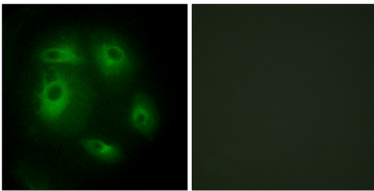
この遺伝子の細胞遺伝学的位置は 3p21.3 であり、様々な悪性腫瘍で一般的に欠失する領域に位置しています。この遺伝子のダウンレ

ギューレーションは、肺がん、食道がん、腎がん、頭頸部扁平上皮がんなど、いくつかのヒトがんにおいて観察されています。腫瘍細胞におけるこの遺伝子の発現低下は、プロモーター領域の異常なメチル化に起因する場合があります。選択的スプライシングを受けた転写産物がいくつか観察されており、これらはコード領域が破壊されており、おそらく機能しないタンパク質をコードしていると考えられる。[RefSeq 提供、2016年3月]、代替産物：少なくとも6つの異なるスプライシングを受けた産物が存在する可能性がある、疾患：DLEC1の欠陥は乳がんの原因となる可能性がある。、疾患：DLEC1の欠陥は食道がんの原因となる可能性がある[MIM: 133239]、疾患：DLEC1の欠陥は原発性肺がんの原因となる可能性がある[MIM: 211980]。肺がん、食道がん、腎臓がんの細胞株および原発性がんの33%では、機能的な転写産物が欠如しており、選択的スプライシングを受けた非機能的な転写産物が増加している。遺伝子自体は変化しない。、疾患：DLEC1の欠陥は腎癌の原因となる可能性がある。、機能：細胞増殖を阻害することで腫瘍抑制因子として作用する可能性がある。、配列に関する注意：イントロンの保持。、組織特異性：検査した全ての組織で発現する。発現は前立腺と精巣で最も高い。、

研究分野

-

画像データ



DLEC1抗体を用いたHeLa細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。